

## 第 52 回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1 日 時：平成 21 年 10 月 26 日 15:00～17:30

2 場 所：奈良商工会議所 4 階 中ホール

3 出席者

委 員 8 名：朝廣佳子、岩本廣美、岡田伸子、谷幸三、  
中川一、中島祐子、前迫ゆり、三野徹、(五十音順、敬称略)

事務局 5 名：奈良県 大熨河川課長 ほか

4 議事要旨

- (1) 第 51 回奈良県河川整備委員会議事概要の確認
- (2) 第 51 回奈良県河川整備委員会補足
- (3) 淀川水系(奈良県域)河川整備計画 素案について
- (4) その他

5 議事内容(主な意見)

5. 1 第 51 回奈良県河川整備委員会補足について

・警戒情報や避難勧告情報は、どういう流れで住民に伝わっていくのか。最終判断はだれがどのように発令するのか。

⇒避難勧告や避難指示は、市町村長が発令することになっている。県の河川管理者は、そのために必要な河川の水位情報や雨量情報を提供する。

・河川環境の管理は順応的管理が重要であるが、モニタリングした後にどのようにフィードバックして事業を変えていくか、何か仕組みを考えているか。PDCA のようなチェック体制を考えているか。

⇒工事の実施にあたっては多自然川づくりをチェックする書類で工事内容を確認している。  
また、河川整備計画を策定後 5 年ごとに見直すこととしており、そのために環境調査を定期的に行うことを考えている。外来種に対する対策や仕組みづくりについては、生物の専門家に相談しながら今後検討していきたい。

・縦断的な環境への配慮として、3m の固定堰を解消し、なだらかな川底とする計画が示されているが、実際はもう少し変化があるのか。

⇒川底が縦断的にフラットにならないよう、川底を広くしてみお筋の蛇行を期待している。  
計画で示しているのは平均的な河床であるが、凸凹するような縦断形にしたい。

・施工の際に湾曲部の外岸側の河床を深くするとか、内岸側の河床を浅くするとか、そういうことはしないのか。

⇒施工の際は、現況河床に形成された地形を平行移動することで、そのようにしたいと考え

ている。

## 5. 2 淀川水系(奈良県)河川整備計画 素案について

- ・素案 P. 4-14 の写真 川の中に飛び石を設けるのは親水効果という点では大変良いものだが、土砂が堆積する。この堆積土砂を定期的に除去しているようだが、そうすると今度は生物への影響が生じてしまう。そういったことも踏まえて、どのような維持管理の考え方を持っているか。  
⇒飛び石は、ある程度密に配置しないと子どもは渡れないため、堆積土砂の除去など管理はある程度必要になると考えている。例えば、佐保川の水辺の楽校でも土砂が堆積しているため、何年間に1回の頻度で土砂除去を行っている。特にゴミが引っ掛かるため、地域の方に対策をしていただいている。飛び石は楽しいものだが、そういった課題は残ると考えている。
- ・宇陀川の松山地区は観光客も来る場所であるから、飛び石のような親水性が向上する整備も将来的には考えても良いのではないか。  
⇒適切な場所があれば飛び石も設置していきたい。
- ・土砂除去は慎重に行わなければ、本当に川が川を造ろうとしている途中であり、良い生態環境、河床の多様性を形成しつつあるのかもしれないのに、それらを壊しているのかもしれない。災害が起こらない程度に維持管理をお願いしたい。  
⇒定期測量を基に一定の阻害率を超えた場合に堆積土砂を除去している。
- ・今回の10月7日、8日の台風18号など、いろいろな洪水で算出流量の整合が図れているかをチェックすれば、目標流量の信頼度がより向上する。
- ・現状のパラメーターで今回の雨を降らせた場合にピーク流量はいくらになり、水位観測所地点でH-Qからでも良いので流量が幾らであったか、分からないか。  
クラーヘン式がよいのか、角屋式がよいのかをチェックする意味でも計算した方がよい。  
⇒例えば今回の台風18号の雨を用いた場合、観測地点での流量の算出については、どこまで対応できるか検討したい。
- ・素案 P. 4-14 の下から4行目「子どもたちや地域住民を対象とした環境学習～地域住民や関係機関と連携した取り組みを進める」ということが一番大事なことである。最近、川に関心を持つサークル等の活動が頻繁に行われている。この住民活動の火を消さないためには、素案のような資料を行政から提供していただくことが大事である。
- ・子どもたちや地域住民が川縁において、環境学習や魚の採取などで楽しむとか、ゴミ拾いをしながら川を美しく守っていこうと思えるような、すぐに行動ができるような整備をしてほしい。整備を行うことにより、生きた資料も提供できるようにしてほしい。  
⇒情報提供は非常に重要だと考える。それらについては、ある程度素案に記載しているつもりだが、補強できるのであれば反映していきたい。
- ・在来種を駆逐するような外来種を駆除しなければならないので、どこに、どのような外来種が存在しているのか把握することが重要である。
- ・河川の水質を示す指標生物がある。それらを見せて川の水質がどうであるか示してほしい。

- ・陸上昆虫としてトンボを多く示しているが、基本的にはトンボは水辺の昆虫として扱う。公表する場合には専門の委員に相談してほしい。
- ・素案 P. 2-7 生態系の現状と課題において、評価がなく課題が明確になっていない。生態系の何が現状で、何が課題か、ストーリーを作って記載してほしい。
- ・素案 P. 1-14 の宇陀川の写真はみお筋が蛇行した写真、P. 2-2 は治水工事が行われて、河道が真っすぐになっている写真であるが、これらをつなげてどういう川にするのか。P. 2-2 の写真はどういう意味で掲載しているのか。
  - ⇒P. 2-2 は改修状況として、まだ整備途上の段階の写真を掲載している。写真の位置からさらに下流に固定堰があり、固定堰を撤去した後に河床を下げる区間である。P. 1-14 の写真はもう少し上流の工事を行わない区間で、瀬・淵がきれいに形成されている場所である。誤解のないよう適切な写真への変更を検討したい。
- ・この宇陀川の例だが、工法としては、我々がこういった川にしたいという水路や植生が存在する場を最初から造ってしまう方が結構早いかもしれない。まさに整備の段階で手法について皆さんといろいろ相談しながら川づくりを進めることが大事である。
- ・P. 1-14 と P. 2-2 の写真は同じ「大宇陀区西山」でも異なる場所であることがわかるように、違う名称や写真の下に工事途中であることなどを記載してほしい。
  - ⇒何々付近とするなど、区別ができるような表現を検討したい。
- ・整備計画は、工事費等の予算や予定などを素案の中に示さないものなのか。
  - 素案 P. 3-2 では河川の整備計画の対象期間が 30 年となっている。ダム等は建設当初から比べると長期間になり、桁違いに工事費が変わっていくと聞いた。河川の整備ではどうか。
    - ⇒費用を記載することは河川法では定めていないので記載していない。工事費については、極力コスト縮減に努めているうえ、ダムのように巨大な施設ではないため、全体事業費が非常に膨大になったり、そのことが原因で事業実施が困難になったりすることはないと考えている。
- ・河川整備計画は公共事業の評価委員会での評価に代わるものとして扱われる。河川整備計画が完成すれば評価委員会に諮る必要がなくなる。整備計画を作ることは、公共事業の評価から外れてしまうことになるため、B/C や具体的な費用の効果は検討されないことにならないか。
  - ⇒河川事業については、現在各水系で河川整備計画を順次策定している段階であり、ある一定以上完成した段階で、例えば 5 年ごとに、本委員会において進捗状況の点検や整備計画への新たな河川の位置づけの必要性などについて点検をお願いしたいと考えている。それまでの間は別途開催している公共事業評価委員会での審議をお願いしたい。
- ・災害時の情報伝達において、市町村が最終判断をするにも、人が少ないとか現場に追われて対応が間に合わないケースなどが多々あるのではないか。その場合、県はどのようにフォローするのか教えてほしい。アラームメールは、例えば行政や自治会長は全員登録する、あるいは、川に入る人は必ず登録してもらうなど、そういう仕組みがあれば、未然に事故を防げると思う。防災はハザードマップとかだけではなく、行政任せにせず自分で身を守るための防災教育を

取り入れてほしい。

⇒アラームメールは市町村の水防に取り組んでいる方に登録をお願いしたり、川にQRコードを付けた看板を立てたり、新聞広告や県民だよりにも掲載したりしている。防災教育に関するチラシも小学校に配布している。浸透するまでに時間がかかるがコツコツと宣伝していきたい。

- ・小学生のリバーウォッチングでは、川の見方や危なさを生物の観察と一緒に教える。そのように子供から教えていくことは重要である。
- ・生物の環境教育などの際に、雲を見たり風を読んだりとか、総合学習として取り組んでいただければ、防災教育に役立つ。いざというときには自分で守らなければならないことを認識する教育をしてほしい。
- ・県や市町村も様々な情報をメールで発信しているが、各一般家庭には全部届かない。日ごろから各自治会の町内とかで十分にコミュニケーションをとるようないろいろな活動をしなければならない。住民自身が率先してみんなを集めて、自分たちの手で非常時のマップや避難場所付きのマップを作るなどのことを行わない限り地域から犠牲者は出るだろうということで、全国的にあちこちの地域で活動が行われている。

(以上)